

漫画研究への扉

日下, 翠
九州大学大学院比較社会文化研究院

南雲, 大悟
國學院大学・二松学舎大学・日本大学非常勤講師

アンカー, ジラジランチャイ
九州大学大学院比較社会文化学府博士課程

佐島, 顕子
福岡女学院大学人文学部現代文化学科

他

<https://hdl.handle.net/2324/16791>

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成，2005-09-20. 梓書院
バージョン：
権利関係：

タイの漫画事情

ジラジランチャイ・アンカー

第1章 タイの漫画事情

1. タイの漫画の変遷
2. タイの漫画の分類
3. ストーリー
4. タイの漫画衰退の原因

第2章 タイ語に翻訳された日本漫画の事情

1. タイでの日本漫画普及の背景
2. タイ語に翻訳された日本漫画
3. 著作権を取得している出版社・日本漫画
4. 日本漫画の特徴
5. 日本漫画の主人公について
6. 日本漫画が人気を集めた理由
7. 日本漫画への批判

タイの漫画事情として、現在、次の二つの現象を著しい特色として取り上げることができる。一つは、伝統的な漫画の社会的な地位が低く、あまり評価されていないことである。もう一つは、タイ語に翻訳された外国の漫画、特に日本の漫画の氾濫と人気上昇である。本稿ではこの二つの現象はなぜ起きたか、お互いに関係があるかということについて考えていきたい。

そのために、まずタイの参考文献、伝統的なタイの漫画の本、漫画の雑誌、新聞の漫画に関する記事などを参考にタイにおける漫画事情をまとめてみたい。

第1章 タイの漫画事情

1. タイの漫画の変遷

タイの漫画の変遷については、Jiranut Permchaiyaporn (1990)¹、Manirat Suchotirat (1994)²と Pathatai Mangkadanara (1998)³などの文献がある。これらによると最初に記録されたタイの漫画は、画家、Khruaingkhon (クルアインコーン) (1824年～1868年、ラーマ3世王～ラーマ4世王) によって描かれた風刺の壁画であった。Khruaingkhonの描いた風刺の壁画は、以前のタイの伝統的な描き方、いわゆる理想主義 (Idealism) の描き方とは異なって、現実主義 (Realism) の絵であった。

ラーマ6世王 (1910年～1925年) の時代には、ラーマ6世王自身が役人の悪質行動や汚職行為について、風刺漫画を描き、「Dusit Samit (ドゥシット・サミット)」という新聞に載せた。1885年から1943年まではタイの印刷技術が向上し始めた時代だと言われ、風刺の漫画というもの

が新聞からはじまり印刷物を通して知られるようになった。

ラーマ7世王（1925年～1934年）の時代の初めには第1世界大戦のせいで、タイも他の諸国と同様、不景気であり、人々は出版物を買う余裕がなかった。出版物業界にも活気がなかった。1932年に、タイには政治的な革命が起こり、民主主義を採用することになったため、人々は以前より意見を述べる自由が出来た。この時、何人かの有名な漫画家が誕生した。当時の漫画はタイの古典文学や民話などの内容に基づいたもの（The Narrative Art Cartoon）が多い。描くスタイルから言えば、西洋の漫画、特にウォルト・ディズニーの漫画の模倣が多かった。その他に、有名な人物や政治家などを風刺して批判するような漫画（Critical Cartoon、Political Cartoon）も新聞には一般的に見られた。子供向けの漫画、雑誌もこの頃出始めた。

戦後になって、1938年に、新聞の漫画以外に男性向け漫画雑誌が出版された。1952年には、家族をテーマにした本格的な子供向けの漫画雑誌、Tukkataa（トックガター）が出版され、人気を集めた。タイの初めてのアニメは「Heetmahatsajan（ヘットマハットサチャン：奇跡的な出来事）」であった。このアニメは1955年に作られ、20分間のカラーアニメで、国内ではあまり評価されなかったが、海外では非常に評判が高かった。「奇跡的な出来事」の監督、ガオグラチャン・パユット（Mr. Prayut Ngawkrachang）は24年後の、1979年にも、再び子供向けのアニメ「ストサーコン」を作成した。

1967年は、タイの漫画の黄金時代だと言われ、漫画は子供たちに文化習慣・美術・技術を教える読み物となった。ところがその後、子供向けのアメリカと日本のアニメや漫画が潜入してくるようになり、タイの漫画の人気は落ちてしまった。タイの伝統的な漫画のプロットを改善しようと努力した漫画家はいたが、大した成果をあげられなかった。この頃、民話・恋愛・道徳・幽霊などをテーマにした値段の安い漫画の本（当時は約1パーツ、現在5パーツぐらいのもの）が出始めた。しかし、現在

に至って、これら廉価本はあまり人気がなく、少数の人たち、つまり、地方の人々、また、収入の少ない労働者の読み物となっている。

1972年から1977年の間、「仮面ライダー」をはじめ、日本のヒーローアクション・ドラマがテレビに放送され、子供たちの人気を集めた。やがて、タイ語に翻訳された日本の漫画も広がり始め、子供や若者の間で支持されるようになった。1980年代前後からは日本の漫画はタイ語に翻訳され、多くの子供や若者に読まれた。当初に普及した日本の漫画は、例えば「キャンディ・キャンディ」、「ドラえもん」、「一休さん」などである。これらの漫画はあまりにも人気が高かったため、タイのテレビ局、チャンネル9がアニメ化されたそれらの人気漫画をテレビ放送するようになった。アニメと漫画は相乗効果によりブームを引き起こした。言うまでもなくアニメ・漫画の関連商品も良く売れている。その反面、タイの漫画を読む人は減少してきている。現在、タイの漫画出版社で生き残っているところは非常に少ない。正に衰退状態にあると言える。

日本の漫画の人気上昇するにつれ、著作権の問題が取り沙汰されるようになった。無許可で翻訳して出版されたものが非常に多く、1994年ようやく政府が著作権法を設け、1995年3月21日から実行された。元々、漫画の出版の経費は高かったのだが、その上、日本の出版社に連絡し版權を獲得したタイの漫画の出版社は、以前より高い経費を負担しなければならなくなった。当然、漫画の価格も高くなった。しかし、日本の漫画やアニメの人気は現在でも衰えてはいない。「何故日本の漫画は子供たちや若者たちに支持を得たのか」、「日本の漫画を読む子供たちや若者たちへの影響はどのようなものなのか」などについて1987年前後から研究者や学者たちの研究対象となり、現在も大きな関心を集めている。

2. タイの漫画の分類

タイの漫画の起源は「風刺のような大人向けの漫画」であった。それから「子供向けの漫画」などが描かれるようになったのはそれ以後である。現在、タイの漫画はタイの伝統的な漫画、新聞や雑誌などのブロック漫画、外国漫画の3つに分けることが出来る。



図1 タイの伝統的な漫画の表紙

2.1 タイの伝統的な漫画 (Traditional Comic Books)

このタイプの漫画は、内容から言えば、仏教の教えに基づいて描かれた道徳を教えるもの、現在の社会を描写するもの、タイ古典文学に基づいて描かれたもの、幽霊、民話、暴力などの話がある。読む価値のあるものもあれば、かなりつまらないものもある。時間つぶし、または、単純な娯楽として、労働者や地方の人たちが読むものとみなされている。

50枚ぐらいの厚さで、値段は5～10パーツぐらいで、収入の少ない人でも手に入れやすいのが利点である。

2.2 新聞や雑誌などのブロック漫画（1－4コマ漫画など）

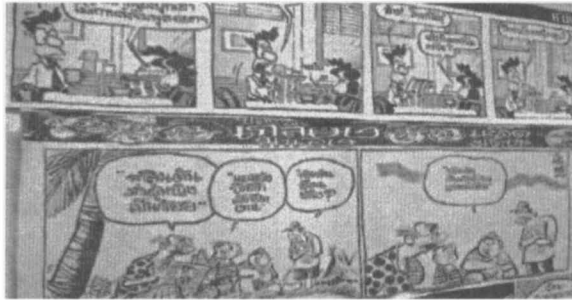


図2 新聞のこま漫画

・新聞のこま漫画

新聞・週刊誌・月刊誌・漫画専門誌には殆どブロック漫画が掲載されている。内容は、政治界の出来事や現在話題になっているCM・歌・人物などを風刺したり批判したりしている。子供から大人まで楽しめる内容なので、人気が高い。しかし、タイ語に翻訳された日本の漫画にはかなわない。現在出版されているこのタイプの漫画の週刊誌（大体10日に1回）は例えば、Khaaihuaro、Mahasanuk、I・Tua・Lekなどである。



図3 タイのこま漫画の専門誌。左から Khaaihuaro、Mahasanuk、I・Tua・Lek

2.3 外国漫画

外国の漫画は、4つに分けられる。日本の漫画、アメリカの漫画、フランスの漫画、中国・台湾・香港の漫画である。この内タイ語に翻訳された日本の漫画は非常に人気がある。1冊のものとシリーズのものがある。高価であるにも関わらず、1980年前後以来、人気は衰えていない。印刷された漫画は子供向け漫画、少女漫画、少年漫画、SF漫画などがあるが、日本漫画の人気理由については第2章に譲る。

アメリカの漫画の場合は内容から言えばコメディ・伝説・神話や怪奇やSFなどがある。例えば *Sleeping Beauty*、*The Little Mermaid*、*Snow White and the Seven Dwarfs*、*Beauty and the Beast*、*Tales from the crypt*、*X-men*、*Spiderman*、*Batman*、*Superman*、*Spawn* などである。

フランスの漫画は神話・伝説のものが多くようだがタイに入ってきたのは *Tin Tin* と *Asterix* などである。

中国・台湾・香港の漫画は最近見られるようになった。元々は小説の表紙の絵画から発展してきたものである。いくつかのものは小説に基づいて描いた。

3. ストーリー

新聞や雑誌などのブロック漫画（1-4コマ漫画など）の内容は、既に述べたように、政治界の出来事・有名人の風刺や、話題になったドラマ・コマーシャル・歌などを風刺したもので、現場の情報などに合わせて描かれる。日本の漫画については第2章で述べる。ここでは、タイの伝統的な漫画（*Traditional Comic Books*）の内容を幾つか紹介する。

3.1 道徳に関する漫画の内容の例

内容：昔のある家族の話である。母親が事故で目が不自由になった。父親は酒におぼれている。息子はよく出来た息子でいつか両親に恩を返



図4『親に恩返しする子』

Theep Panthewa (公刊年—不明)『親に恩返しする子』Prachachang Publishing

さなければと思っている。ある日、酒に酔った父親に2人とも家を追い出された。歩きつかれて、休憩所で寝ていた時、息子は日の神様の夢を見た。日の神様は善を重ねれば重ねるほど、母親の目が見えるようになると夢の中で告げた。歩き続けて、沼に辿り着いた。息子はこの沼はどうせ干し上がって魚は死んでしまうのだから、魚をとって料理にしようと言ったが、母親はやめるようにと言い、息子に沼から魚をすくいあげて、大きい川に放すようにと言った。母親の言ったとおりにすると、母親の目が少し見えるようになった。2人は旅を続けてようやくある国に辿り着いた。そこで、老人の乞食と出会った。かわいそうだと思って、息子は自分の持っているバナナの半分を乞食にあげた。自分はまだ若いから食べなくてもいい、残りの半分は母親に食べさせようと思っていた。その時、母親の目がまた少し見えるようになった。息子はその後、川でおぼれかけた子供を助けた。そこで母親の目がすっかり治った。助けた子供はその国の王様の息子であった。王様は目の不自由だった母親の息子に、王子の世話役の仕事を与えた。ある日、父親のことが心配になった息子は父親を探しに出かけた。住んでいた家に父親の姿はなく、

知人は、出稼ぎに行ったと言った。帰る途中、偶然にも父親に会った。突然、どこからか馬が父親のところに走ってきて、ぶつかろうとした。息子は自分を犠牲にして父親を守った。幸いたいした怪我ではなかったが、よく見てみると父親の目が不自由になっていた。聞いてみると、酒を飲みすぎたせいでそうなってしまったのだった。息子は悪かろうが良かろうが父親は父親だから、連れて帰って面倒をみることにしたのだった。

3.2 古典文学を基にして描かれた漫画の内容の例



図5 『Absoonsawan』

Dok Oo (公刊年—不明) 『Absoonsawan』 Usasawat Publishing

内容：プレイヤーカット（胴体は人間であるが、口と手足のつめが鳥と同じである。羽もある。魔法使いのような力がある。）は天国の王、ラインと囲碁のようなゲームをして、きれいな天使、アブソンサワンをかけた。アブソンサワンはラインのお世話をしている天使だが、ラインの今回の命令、つまり、プレイヤーカットのものになるということに従うことは出来なかった。ラインは反発したアブソンサワンに罰を与え、天国から人間のところに行かせ、ひどい目に合わせた。しかし、幸

い、行者に助けってもらった。それ以来、アプソンサワンは行者の近くに住むようになった。

ある日、ハンサムな男性が訪ねてきた。アプソンサワンとこの男性はお互いに一目ぼれであった。2人は結婚してから三年以内はその森にいないといけないうらと行者は予言した。2人は幸せな暮らしを送って、アプソンサワンは妊娠し、出産した。ところが、彼女の産んだのはたまごであった。アプソンサワンは大変悲しんだが、夫の励ましで乗り越えた。

ある日、突然、怪物が通りかかった。アプソンサワンを奪おうとしたので、夫は戦った。怪物は魔法を使って、体を大きくした。それを見て夫も魔法を使って、体を大きくした。結局夫が勝利を得た。アプソンサワンは夫がなぜ魔法を使えるのかを聞いた。夫は自分がブラヤーカットでアプソンサワンのことはどうしてもあきらめきれないと告白した。2人は理解し合って天国に戻った。

3.3 現代社会を描写する漫画の内容の例



図6 『Wairun : 思春期』

Pong (公刊年—不明) 『Wairun : 思春期』 Prachachang Publishing

内容：チャットとヴェウは新婚夫婦で、思春期の甥と一緒に住んでいた。ある日、チャットが家に着くと、家は散らかり、乱暴されたヴェウの死体を発見した。彼は甥を疑って、問い詰めたが、否定された。甥の父親は自分の息子がそんなことをする子ではないと信じ込んで、チャットを責めて息子を寮に入れた。実はこの甥は本当にヴェウを乱暴して殺したのであった。彼はいい気になって、寮の管理人の奥さんに乱暴しようとした。しかし、寮の管理人の奥さんは戦って彼を刺した。甥は死んだ。自業自得であった。

3.4 お化け・幽霊を描いた内容の例

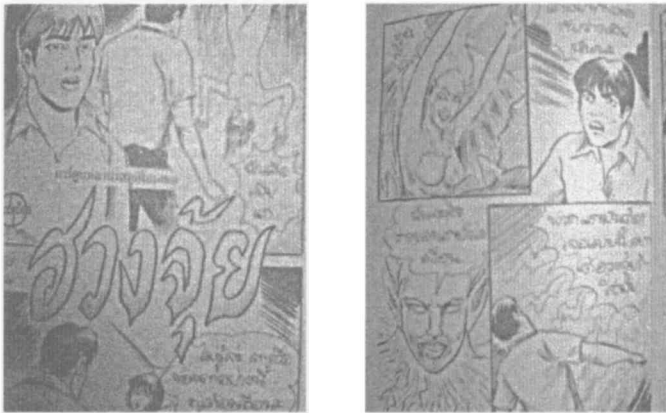


図7 『Huang Jui：方角』

Pong（公刊年—不明）『Huang Jui：方角』 Prachachang Publishing

内容：ピサヌが家を建てた。彼は、建てる前には方角をよくみてもらったつもりであった。ある日、エックという人がピサヌに頼みごとをしに来た。それは自分を臆にしないよう、ピサヌから自分の雇い主であるピサヌの兄に頼んでほしいというものであった。しかし、ピサヌは断った。その瞬間、エックの姿は変わって、お化けになってしまった。お化けは、ピサヌたちが自分の墓の上に家を建てたと言って、ピサヌを殺そ

うとした。ピサヌは逃げている最中、妻に会った。妻はお兄さんからの伝言をピサヌに伝えた。エックが首吊りしたとのことである。再びお化けが現れた。妻に逃げろとピサヌは大声で言った。しかし、妻の姿はだんだんお化けに変わった。ピサヌはお化けと必死で戦った。次の朝、彼の前には2つの死体があった。自分の妻とエックの死体であった。彼は犯人になってしまった。

4. タイの漫画衰退の原因

Konkrud Bondindeang (1983)⁴によると、タイ人はテレビを見るのが大好きである。特に字を読めない人、収入の少ない人はそうである（外出するのはお金がかかるため）。テレビのアニメは分かりやすく簡単に楽しめるので人気が高い。当時、テレビで放送されたアニメは殆ど日本のアニメである。テレビで放送されている子供向けの日本のアニメ（例：ドラえもん、一休さんなど）の内容とテーマは非常に良かった。つまり、その漫画のテーマには、大体、努力すること、善は必ず勝つこと、弱いものの見方になることなどがある。それに対してタイはアニメを作る人力も、経済力もない。（中略）と分析している。

上述したような原因以外に、（タイの伝統的な漫画の内容3.1－3.4を参照）挙げられる原因は、タイの伝統的な漫画は絵の質・提出の技術（close upなど）は明らかに劣った。進行の仕方・プロットなどの質のよくないこと、単純な社会の描写やすでにある古典文学の翻案だけでは読者を魅きつけられないこと、場面も殆ど同じため、次にどのようなことが起きるかは想像がつくこと、ナレーションの部分が多いことなどである。

なぜ品質の良いタイの漫画を書けないか、なぜタイの漫画が衰退しているという質問に対しては次のような理由が原因であろうと言われている。まず、アメリカや日本の場合には作成チームがあるのに対してタイの

場合は一人で全作品を担当する漫画家が殆どである。だから、早く完成させるために（早く謝礼をもらうために）手を抜くことも多い。漫画家という職業は無名な漫画家であればそんなにたくさんお金をもらえない。そのため漫画を書きながら他の仕事もしなければならない。彼らの時間はすべて漫画に集中できるわけではない。

次に、タイの消費者にも原因があるようである。つまり、国産のものより外国のものの方を選びがちである。

最後に、多くの大人にとって漫画に対する価値観はそれほどよくはない。漫画はナンセンスで子供の読み物だと認識している。このような意識を変えないかぎりタイの漫画界を発展させることはできない。

しかし、最近漫画に対する良い傾向が見られている。漫画のコンテストの受賞作品を見ると、以前の欠点を改善しようとする努力をしていると思う。とは言え、イラストはなぜか日本の漫画ばくなってきた。



図8 受賞作品の漫画

第2章 タイ語に翻訳された日本漫画の事情

1. タイでの日本漫画普及の背景

第1章で記述したように、1980年前後から日本の漫画はタイ語に翻訳されはじめた。正しく著作権をもらって、出版するものもあれば、そうでないものもある。絵の美しさの他、異国の文化習慣を学んだり、想像力を高めたりすることができるのが特徴である。ところが、その中には乱暴な場面、性的な場面もよく見られるので、子供に悪影響を与えると懸念する声もある。現在翻訳された日本の漫画の値段は格別に高いが、マーケット上での売り上げは上昇している。

2. タイ語に翻訳された日本漫画

Kawii Bantjai, Suchat Sawatsri (1983)⁵は日本国内には、次のような漫画のタイプがあると述べている。

- 1) S.F 漫画
- 2) 学園漫画
- 3) 怪奇漫画
- 4) 戦記漫画
- 5) 時代漫画
- 6) 少女漫画
- 7) エロ漫画
- 8) Avant Garde 漫画



図9 日本の漫画の表紙



図 10 日本の漫画の表紙

現在、タイの日本の漫画マーケットや販売店では上の全種類が置いてある。ネット上でも購入できるようになった。例えば、以下の Web Site である。

<http://www.dokya.com/book/catalog.asp?cate=89&dept=24>

<http://www.dokya.com/book/catalog.asp?cate=99&dept=24>

3. 著作権を取得している出版社・日本漫画

著作権を得て出版している出版社の例

- 1) Siam Inter Comics
- 2) Vibunkit Publishing Group
- 3) New Generation Publishing 他 Pathatai Mangkadanara (1998)
- 4) Bangkoch Comics
- 5) Tomorrow Comix
- 6) Burapat Comics
- 7) SNB Comics
- 8) Leon Book
- 9) Giant Comic

- 10) Nation Edutainment
 11) Onna Book
 12) Nation

タイ語に翻訳され、出版されている日本漫画の例

作者	日本漫画の題名
Hirohiko Araki	JoJo
Gosho Aoyama	Detective Conan (名探偵コナン) / Yaiba
Osamu Tezuka	Astro boy (鉄腕アトム) / Kinba the white Lion (The Jungle Emperor) / Princess Knight (Princess Sapphire) / Magma Taishi (Ambassador Taishi) / Black Jack
Tetsuo Hara	Kagemusha Tokugawa Ieyasu / Sakon
Yuzo Takada	The Legend of Trinetre (3 × 3eyes) / Blue Seed / Genzo Hitogatakiwa
Yuriko Nishiyama	Harlem Beat
Yoshito Usui	Crayon Shin-chan (クレヨンしんちゃん)
Rumiko Takahashi	Ranma 1/2 / Inuyasha
Fujiko F. Fujio	Doraemon
Hisashi Sakaguchi	一休さん
Terasawa Buichi	Cobra / Cats eye / F. Compo
Toshuyuki Mutsu	Dr. Noguchi
Akira Toriyama	Dragon Ball / Dr. Slump / Cowa / Kajika
Sirow Masamune	Ghost in the Shell
Akira Ijuin	Clamp
Mitsuru Adachi	H2 / Touch / Miyuki
Ken Ishigawa	Getter Robo-Go / Rashomon
Katsuhiro Otomo	Akira
Takashi Shiina	GS Mikami
Masami Kurumada	B' TX
Yoshikazu Yasuhiko	Venus War / Anton
Hiroaki Samura	Blade of the Innortal
Kentarou Miura	Berserk

4. 日本漫画の特徴

Kawii Banthai, Suchat Sawatsri (1983) は、また、日本漫画の特徴を3つ述べている。

1) 善は必ず勝つ

例えば、ヒーローと怪物との戦いを代表にして「善と悪の戦いは善が必ず勝つ」(melodrama) というような教えはテーマに入っている。

2) 友情・団結力

日本の社会には友情と団結力が存在していることがよく知られている。この基本的な社会ルールも殆どテーマに入っている。

3) 努力

日本人の国民性ともいわれる努力は漫画のテーマになっている。

この3つのテーマは大体日本の漫画の中に存在し、日本の社会を描いている。漫画を読むと同時に日本社会の勉強もできると言えよう。タイの伝統的な漫画の場合、これらのテーマをはっきり描写することが少ない。

5. 日本漫画の主人公について

Kawii Banthai, Suchat Sawatsri (1983) は日本の漫画の主人公についてこのように分けている。

1) スーパーマン型

能力万能の主人公である。例えば、ドラえもんは何でもできる。子供の夢をかなえるロボットである。それに加え、正義感も強く、弱いものの味方である。

2) 平凡型

主人公は普通の人だが、自分自身を信じて、努力を重ねて成功するタイプである。学園漫画はこのタイプの主人公が多い。

3) かわいそう型

親のないかわいそうな主人公だが、生きるために努力する。運命に負けない強さが現れている。

4) 怪物・怪人型

お化け、怪物だが特別な力の持ち主で、人間を助けてくれる。

6. 日本漫画が人気を集めた理由

日本の漫画はなぜ支持を集めたかといえば、それはタイの伝統的な漫画や新聞やブロック漫画にはないものがあるからだと言えよう。以下に内面的な要因と外面的な要因に分けて述べてみたい。比較対照はタイ語に翻訳された日本の漫画とタイの伝統的な漫画を中心に観察する。

1) 内面的な要因

内面的な要因として、漫画の内容・漫画のプロット・進行のし方・主人公と登場人物の性格の設定・場面設定・ギャグ・描く技術、いわゆる、漫画自体に関わる要因があげられる。

	項目	日本の漫画	タイの伝統的な漫画
1	漫画の内容	内容はバリエーションが豊富で、読者を魅了する。分かりにくいことを簡単に説明でき、知的な内容を扱っている。	内容は似たり寄ったりのものが多い。次はどんなことが起きるかは想像がつく。
2	漫画のプロット	巧妙な仕組みで、面白い。	単純な仕組みのものが多い。
3	進行の仕方	ナレーションと主人公や登場人物の対話を組み合わせ、進行する。	殆どナレーションで進行する。主人公や登場人物の対話は少ない。
4	主人公と登場人物の性格の設定	主人公や登場人物の性格の設定があり、それらの役が生き生きと描かれる。	主人公と登場人物の性格の設定はあまりはっきりしていない。もしくは、読者に伝わらない。
5	場面設定	場面設定が豊かである。過去・現在・未来の場面も見られ、日本国内の場面だけでなく、異国の場面も描かれる。	主に日常生活で見られるような場面である。
6	ギャグ	登場人物をうまく利用し、読者の笑いをとる。面白い。	ギャグがすくない。
7	テーマ	読者に何を伝えたいのかははっきり分かる。それらのテーマは読者にプラス思考を与える。	テーマはいくつかに限られている。
8	描く技術	非常に優れている。細かいところまで描く。人物のイラストの多くは中性的 (asexuality) で両性に受け入れられやすい。	技術的にはあまり高くない。イラストの質は良くない。描写の技術は劣る。映画のような close up や動きのあるような描写などはあまり見られない。

2) 外的な要因

外的な要因として、漫画そのもの以外の要因、即ち、メディアの影響をあげることができる。映画やテレビなどがまだ普及しなかった時代には、読み物が人々の娯楽として読まれていた。やがて、映画やテレビが広がり、人々の関心を集めた。タイの場合は教育を受けられない子供、受けなかった人もまだいる。従って、字の読めない、まだ字のたくさん読めない子供、または、動画の魅力に引きつけられた人々にとっては、読むよりも、目で見て、耳で聞けるメディア、つまりテレビの方が良いということは容易に想像できる。子供の場合はテレビで放送された日本のアニメを見て、更に漫画を読みたくなる。漫画のブームの裏はテレビの効果にあると思われる。

7. 日本漫画への批判

タイの青少年保護者は、漫画の内容について、特に悪質行動・乱暴な場面や恋愛・ラブシーンを含む内容の漫画に対して懸念する声が多い。子供たちがそれらの漫画を読んで、悪影響を受け、良いか悪いかを自ら判断できず、漫画の主人公を真似したりするのではないかと心配している。タイの社会では恋愛というものは勉学に励んでいる子供たちが経験するべきではないと考えている。また、漫画を読むと勉強の時間を無駄に取られ、子供の学力にも影響に及ぶと心配する声もある。その上、著作権法が実行されて以来、漫画の値段は高くなる一方で、しかも漫画から得られるものに価値があるかどうか分からないと思っている親が多い。以上のような理由で子供にはあまり漫画を読ませたくないようである。

Jiranut Permchaiyaporn (1990) は Matichon 新聞宛てに日本の漫画に関する子供たちの意見として次のようなことを書いている。

日本の漫画は絵がきれいで、内容も工夫されている。楽しくて面白

い。プロットはリアルで、巧妙に内容を組み立て、最後まで読みたくなる。ただ楽しく読めるだけでなく、その漫画から得たもの（考えさせること）もある。それに、日本人の生き方・文化・習慣もわかる。

タイの子供たちは日本の漫画についてプラスの意見を持っているものが多い。つまり、現在タイの伝統的な漫画に欠けているのは、子供たちが挙げていた日本の漫画の特徴ではなかろうか。

<http://www.netcity.or.jp/otakuweekly/YOKOKU/cont17.html>で野村進（文芸春秋5月号）は次のように書いている。

「全然わからないところは読み飛ばすけど、たいてい（こんな意味かな）と思って読んでいくうちに、だんだんわかってくるんですよ」「私たち、日本語の読み書きは問題ないですけど、しゃべれないですよね」…（以上、タイの漫画オタクの女の子たちの会話/後略）

このことについて、野村進は「こうやってタイも又、日本の文化植民地になっていくのだ」と述べている。

この文を読んで分かったのは、まず、タイの女の子たちは日本の漫画を通して語学の勉強をしていることと、日本語を話すことに関してハンディを持っていることである。確かに日本、日本文化に憧れている様子ではあるが、野村進が心配するほどの問題ではないと思う。逆に、この意欲を利用して、興味の高いメディア、つまり、漫画を通して日本語を学習できるような形にしていくことはタイの現状において必要ではないかと思う。漫画を日本語の教材にすることは、1つの選択肢だと思う。

おわりに

上記したように現在タイの伝統的な漫画の社会的な地位が低い、あまり評価されていない。なお、タイ語に翻訳された外国の漫画特に日本のものの氾濫と人気上昇の原因について述べてきた。この二つの現象はなぜ起きたか、お互いにどのような関係があるかも記述したので総合的なタイの漫画事情が理解できると思う。

筆者は小さいころから漫画を読む者であり、まとめとして次の3点の意見を述べたい。

1) タイでは漫画を読むことに対する意識をこれから徐々に変えなければならないことである。漫画はナンセンスな読み物・悪い行為（セックスや乱暴な場面を提供する読み物）ばかりと考えるので漫画の長所、つまり、簡単にものを説明でき、同時に楽しく知的なことも学習できることを扱わなければならないと思いを変えるのが望ましい。そうすることによって漫画の最高の有益を使うことが出来、漫画の描写の技術や人気などにつながるのではないかと思う。

2) 外国の漫画特に日本の漫画は様々な種類がある。選ぶことによってそれぞれの漫画の有益が利用できる。筆者にとっては多かれ少なかれ日本の歴史・文化・習慣・言語・非言語・異文化などを漫画から学んだ。

3) タイではテレビのアニメ（特に日本のもの）は非常に普及している。この現状は何かそれらのアニメの良さを認める証拠ではないかと思う。筆者にとっては友情・団結力・忍耐・努力・想像力・善悪など子供に教えるべきことは漫画でしつけできると思う。もちろん乱暴な場面や子供にみせるべきではない場面はあるはずだが、その点は大人である我々が子供にアドバイスや指導しなければならぬ。

■ 注 ■

- 1 Jiranut Permchaiyaporn (1990) 「子ども向けのタイの漫画雑誌『Chaiyaphruk Cartoon』をめぐって」、pp.14-16
- 2 Manirat Suchotirat (1994) 『漫画Fever問題への解決法：読書性を身につけることへの歩み』、pp.2-4
- 3 Pathatai Mangkadanara (1998) “The Depiction of Heroism in the Japanese Cartoon Books in Thailand (1993-1997)”, pp.8-15
- 4 Konkrud Bondindeang (1983) 「「文化の戦争」タイの漫画はなぜなくなるのか」『look nangsuu』、pp.45-51
- 5 Kawii Banthai、Suchat Sawatsri (1983) 「文化「漫画」日本国内の場合」『look nangsuu』、pp.18-33

■ 参考文献 ■

- Jiranut Permchaiyaporn (1990) 「子ども向けのタイの漫画雑誌『Chaiyaphruk Cartoon』をめぐって」
- Kawii Banthai、Suchat Sawatsri (1983) 「文化「漫画」日本国内の場合」『look nangsuu』
- Manirat Suchotirat (1994) 『漫画Fever問題への解決法：読書性を身につけることへの歩み』
- Pathatai Mangkadanara (1998) “The Depiction of Heroism in the Japanese Cartoon Books in Thailand (1993-1997)”
- Prasopchok Navapunpipat (1997) “The use of codes in works of Thai cartoonist”
- Prasert Palittapholkanphim (2000) *Cartoon thii rak*, Matichon.
- Prasert Palittapholkanphim (2001) *Cartoon sut thii rak*, Matichon.